

考古学研究者

とやま まさこ
外山 政子さん

Profile

1943年東京都生まれ。令和5年に第31回石川薫記念地域文化賞功労賞受賞。かまどを中心とした古代以降の食文化研究を行う。

仲間と紡ぐ、考古学の未来

発

掘された遺跡・遺物を基に、現代日本のルーツをたどる。考古学研究者の外山さんは、そのロマンを追いつめ、日本や世界各地を飛び回りながら今も研究を続けています。

東京都で6人きょうだいの末っ子として生まれた外山さん。考古学に興味を持ったのは高校生の時で、世界史の授業の近代考古学者の話に心を動かされます。「発掘の手法からその人柄・生活の様子まで、いろいろなことを教えてくれる面白い先生だったんです。それで興味を持って、西洋考古学を学びたいと思いました」と話します。しかし、直感で進学を決めた大学で扱っていたのは日本考古学でした。「強い意思で選んだ訳ではなかったのでもうま学びました。でも、先生にいろいろな所に実習に連れて行ってもらって、それが本当に面白かった」と、当時を振り返ります。

卒業後は、県や市の文化財保護課などで嘱託職員として働く傍ら、大手企業の助成制度に研究が採用されるなど着々と成果を上げていきます。しかし、出産・子育てな

ど、女性であるために思うように研究に没頭できなかった時期もありました。「悔しい思いをしたこともあります。でも、家族の理解があったのと、何より楽しいから続けられた」と振り返る外山さん。

「調査で分かることは昔の生活のほんの一部。だけど、同じ志の仲間と議論しながら、分らないことを追求していくのが楽しい」と続けます。「日本人のDNAも普段使っている道具も、さまざまなルーツがある。海外から不意に入ってきたものもたくさんあります。その意識を持って、排他的にならずに国籍や年齢、性別、意見が違う人とも分け隔てなく話し合う。これが大切」と思いを語ってくれました。実際に外山さんは、年齢や立場を越えて若手研究員とも積極的な情報共有を行い、共に研究を進めています。

「周りの人が助けてくれているし、まだまだやりたいことがたくさんあるから頑張らなきゃ」と、お茶目に笑う外山さん。長年にわたり過去を見つめてきたそのまなざしには、未来への期待と今も瑞々しい探求心が満ち溢れています。